

音楽科 公開授業 指導案

<授業者> 両輪 綾美	<公開学級> 2年B組	<場所> 3階音楽室
-------------	-------------	------------

1 題材名 曲の構成を理解して、リズムアンサンブルの表現を工夫しよう 「Let's Create」(本時3/3)

2 教材について

本題材は、「表現」の(1)創作分野において、音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について、表したいイメージとかかわらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けることをねらいとしている。

本教材「Let's Create」では、ボディーパーカッションという音素材を使って、音色の特徴を生かしたリズムパターンをつくる。さらに、つくったリズムを基にペアで組み合わせ、表したいイメージに合ったリズムアンサンブルの創作の学習活動に取り組む。

本時では、前時までにつくったリズムアンサンブルの改善点や工夫したいことをペアで確認する。そして、よりイメージに合った音楽にするために音の重なり方や反復、変化、対照などの構成をどのように工夫したらよいか意見交換することによって考えを深め、創作表現にかかわる知識や技能を得たり生かしたりしながらまとまりのある創作表現を創意工夫することができるようにしたい。

3 研究に関わって

指導のねらいや生徒の実態から、研究内容に関わって以下のような指導・援助を考えた。

研究内容(1)主体的・対話的な追究活動の工夫

ア：細分化された付けたい力を明確にした必然性のある小集団交流

ペアによるリズムアンサンブルを創作表現する活動を取り入れることにより、個々につくったリズムを組み合わせ、イメージに合った表現を工夫する上で、音の重なり方や反復、変化、対照などの意味とその効果をより深く理解できるようになり、課題に沿った音の選択や組合せなどの技能の習得につながると考えた。

また、他者と関わりながら創作表現を創意工夫する場を位置付けることにより、互いの発想や見通しを伝え合ったり、つくっている音楽の工夫点とそれが生み出す雰囲気とのかかわりについて確かめ合ったりすることができ、考えの深まりにつながると考えた。このような指導・援助により、仲間と試行錯誤しながら、より主体的・協働的に創作の活動に取り組むことができるようにする。

手立て① ペアによるリズムアンサンブルを創作する活動を取り入れる。

研究内容(2) 自己肯定感の向上を促す終末の工夫

ア：基礎基本の定着を見届けるためのまとめや自己評価

前題材「構成を工夫してリズムアンサンブルをつくろう」では、グループアンサンブルの学習に取り組み、つくった音楽を発表して意見交流を行った。この活動を位置付けたことにより、他のグループの発表を客観的に聴くことができ、表現の工夫点とそれが生み出す雰囲気とのかかわりについてより深く感じ取ろうとしたり、表現のよさを自分の言葉で述べようとしたりする姿につながった。本題材においても終末において、つくった音楽を発表して意見交流する場を位置付ける。意見交流では、音素材や構成を工夫して表現したことにより、表したいイメージとどのように関わらせることができたかを言葉で述べるように指導・助言を行う。そして、交流での仲間の発言からさらに一人一人が学習の深まりを実感し、まとめを書くことができるようにする。

手立て② 創作した作品を発表する場を位置付け、仲間の表現のよさや深まった表現を言葉でまとめる。

4 本時のねらい

一人一人がつくったリズムパターンをペアで重ねてリズムアンサンブルを創作する学習を通して、音色、音の重なり方や構成上の特徴を生かして表したいイメージに合った表現を創意工夫することができる。

5 本時の展開

【共通事項】 音色 リズム テクスチャ 構成

	学習活動	指導・援助 留意点
導入	<p>1. 前時の中間発表を参考にして、リズムアンサンブルの改善点やさらに工夫したいことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表での仲間の表現のよさや、自分たちの表現についてアドバイスを受けたことを参考にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表での効果的な工夫点を想起させ、さらに創意工夫できるように助言し、本時の課題への意識化を図る。
展開	<p>一人一人のリズムパターンの構成を工夫して、自分たちのイメージに合ったリズムアンサンブルを表現しよう</p>	
	<p>2. ペアでつくったリズムパターンのアンサンブル全体の構成についてさらに工夫したいことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボディーパーカッションのどの音色を選ぶかや、リズムの重なり方、構成によっても違った雰囲気になる。 <p>3. 話し合ったことを基にしてペアで創作活動をする。</p> <p><u>(条件) 1小節のリズムパターンを2つ、計4つのリズムを8小節</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいイメージに合った音楽表現をつくる。 <p>【音色】 バランスや拍の強弱を考えて音の出し方を変化させてみる。</p> <p>【重なり方】 リズムパターンを同時に、または交互に重ねてみる。 重ねるリズムパターンの種類を入れ替えてみる。リズムを修正してよりイメージに合う重なり方にする。</p> <p>【構成】 反復、変化、対照などの構成の仕方を変えてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できあがった表現を速さやタイミングをそろえてアンサンブルできるように練習する。 ・ペアで工夫した点をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の要素【音色、重なり方、構成】によって雰囲気が変化することを全体場で確認し、工夫点に取り入れるよう助言する。 <p>研究内容(1)ーア ペア学習を位置付け、試行錯誤しながら考えの深まりを促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試行錯誤の過程で、組合せを考えてリズムパターンを変更してもよいことを助言する。 ・机間指導では表現したいイメージを問い返し、そのイメージと関わらせて創意工夫できるよう助言する。
終末	<p>4. ペアでつくった音楽を発表し、表現のよさを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に工夫点を伝えてから音楽を発表する。 ・各グループの発表から、どのようによさを感じたかを発表する。 <p>○1拍目がはっきりわかるように音色を変えたので、明るい曲のイメージになった</p> <p>○2つのリズムを重ねたときに、音色をそれぞれ変えてみると、主旋律と副旋律のようになって聴きやすい。</p> <p>○それぞれのリズムを交互にかけ合うよう演奏したり、同時に演奏したりすることで、全体の重なり印象が変わった。</p> <p>○リズムを反復させたり、違うリズムを取り入れて変化させたりすることで、曲の流れにまとまりが生まれた。</p> <p>5. リズム創作に関する自分の考えの深まりや、創作のおもしろさについてワークシートに記入し、本時のまとめをする。</p>	<p>研究内容(2)ーア 作品を発表する場を位置付け、仲間の表現のよさを音楽の要素とかかわらせて述べたり、意見を聞いたりすることで、本時の学習内容をより実感して理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の要素から表現のよさに気付いている発言を取り上げ、価値付ける。
	<p>音色やリズムの重なり方を変えることで、音楽の印象も変化する。この組合せを反復させたり、新しいリズムで変化させたりすると、さらにまとまりのある音楽になる。いろいろな方法を試しながら、表現したいイメージをもってつくることができた。</p>	<p>【評価規準】<思考判断表現> 音色、音の重なり方や構成上の特徴を生かして表したいイメージに合った表現を創意工夫している。 評価方法 音楽表現・発言・ワークシートの記述</p>

